

情報の海を駆けめぐるロボットの仕組み

『インターネット エージェント』

ネットサーフィンをするときに、まず利用するのがディレクトリーサービスや検索サービスだ。その中で、ロボット型検索エンジンという用語を耳にする。このことをインターネットを始めたばかりの知り合いに話していたら、「それって、どんなロボットなの。使ってみても、ロボットらしくないんだよね」といわれた。コンピュータウイルスが人間に感染すると思われるように、このロボットを变身合体メカと勘違いしている。エージェントもそうだ。プロスポーツなどで有名な契約金について折衝する代理人と思われるそう

だが、当然ながら正しくはない。ロボットやエージェントは、利用者の代わりに仕事を処理してくれるプログラムのことで、膨大な情報量を貯えるインターネットに自動でアクセスして、ホームページの情報を探しに行く。本書では、インターネットで活躍するエージェントと、その関連技術についての解説を行っている。エージェント概論、WWWのリンクをたどりながら情報を収集していくウェブロボットの構成、ショッピングをするエージェントに重要な問題となる電子商取引について、似て非なるプログラム

としてのワームとウイルス、MUDに住むMUDエージェントとチャットロボットといった構成で、最後にperlで書かれたWebWalkerとWebShopperのソースコードが紹介されている。エージェントをプログラムしてみたい人には大いに参考になるだろう。



Fah-Chun Cheong 著 / 大野浩之 監訳
インプレス 発行
461 ページ
本体 5600 円 + 税
ISBN4-8443-4921-X



インターネットの最新事情をつかむ

菊地宏明 Hiroaki Kikuchi

日本のパソコン通信の誕生秘話

『パソコン通信開拓者伝説』



小口 覺 著
小学館 発行
173 ページ
本体 1000 円 + 税
ISBN4-09-346041-8

日本におけるパソコン通信の歴史を綴っている本で、雑誌DIMEに連載された「パソコン通信夜明け前」を加筆再編集している。

サブタイトルに「日本のネットワークを作った男たち」とあるが、黎明期のBBSから、ニフティサーブが始まるまでのパソコン通信を描き、専用線のネットワークやインターネットについては、ほとんど取り

上げていない。時代は70年代後半、まだパソコンがない時代から始まる。そのころにマイクロプロセッサが始め、一枚の基板で構成させたワンボードコンピュータが現れた。確かクロックスピードが2MHz、RAMが4~8KBほどのスペックしかないコンピュータをみんなが目をは輝かせて使っていた(ちなみにこの原稿は400MHzのCPUで書いている)。

そんな人たちが語るのだから、熱い。昔からパーツショップとしてマニアの溜まり場になっていた本多通商(現在のぷらっとホーム)に学生だったころの西和彦や古川亨らがたむろしていたなんて、想像するだけでも楽しい。通信だって、最初はゲリラ的だけど民主的だ。ハッキング中心の米国のパソコン通信黎明期と比較してもおもしろい。

この時代を知っている人には、そう言えばこんな感じだったなあと思いつくほどによく描かれている。

オンラインデータベースを使いになす

『最新オンライン情報源活用法』

インターネット、パソコン通信、商用オンラインで利用可能なデータベースを紹介した本。

インターネットで情報が検索できることはご存じのとおりだが、個人が提供する情報や無償提供する情報が多く、有益な情報が見つかるとは限らない。

専門分野のデータベースは依然重要な位置を占め、それなしでは仕事にならないビジネスや研究も数多くある。本書は、インターネットで利用できる情報源にとどまらず、パソコン通信経由で有料公開されているデータベースや、インターネットやパソコン通信とは別

の独立したネットワークワークシステムに加えて使うデー

タベースなども紹介している。

データベースは、データベース名、データベースの内容を示す短いコメント、データベースが利用可能なオンラインシステム、データベース作成機関などをコンパクトにまとめて掲載している。

オンラインシステムは連絡先組織名、電話番号が記され、加入するためのコンタクト先が明らかにされている。また、インターネット上のデータベースやインターネットに情報を公開しているオンラインシステムはURLを記しているの、WWWで確認が取りやすい。

初心者がデータベースを利用するとき一番気になるのが費用だが、本書ではまったく触れていないのが残念である。



日本データベース協会 編
日外アソシエーツ 発行
191 ページ
本体 2000 円 + 税
ISBN4-8169-1454-4

e-businessで成功する秘訣とは

『インターネット マーケティング戦略実践 テクニック』

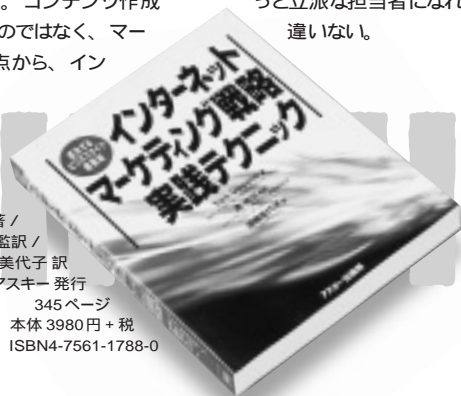
電子ビジネスをアピールしている日本アイ・ビー・エムのテレビコマーシャルを見た。コンピュータメーカーも、インターネットでのビジネスを顧客に提案するようになったことを実感する。本書は米国IBM社のインターネット戦略担当マネージャーによって書かれているので、興味を引かれた。

ウェブコンテンツ作成者をはじめ、マーケティング担当者、ビジネス戦略を考える社員、管理職、経営者に向けたビジネスサイトの構築指導の本である。コンテンツ作成技術を解説するのではなく、マーケティングの視点から、イン

ターネットを使ったマーケティングにはどのようなメリットがあるか、実践するためには何を考えねばならないかを順序立てて解説してくれる。ドメイン名を取得すること以前に、よりインパクトのある効果的なドメイン名とは何かといった問題にも目を向けている。

もし「君、明日からインターネットでビジネスをする担当だよ」と言われたら、きっとどこから始めていいものかも見当がつかずに途方に暮れることだろう。明確にその方法を示す本書は、実践テクニックというより指導書といえる。

本書に基づいて、マーケティングの分析ができる自信があれば、きっと立派な担当者になれるに違いない。



Tom Vassos 著 /
森 祐治 監訳 /
遠藤美代子 訳
アスキー 発行
345 ページ
本体 3980 円 + 税
ISBN4-7561-1788-0



ブルース・キャンベル、リック・ダーネル 著 / 安藤慶一 訳
プレントリスホール出版 発行
496 ページ
本体 4000 円 + 税
ISBN4-89471-048-X

例題で学べる動くホームページの解説書

『ダイナミックHTML入門』

最近のウェブページは、マウスカーソルを動かすたびに文章が切り替わったり、画像が動いたり、何かと賑やかなものになっている。以前はGIFアニメーションがその主流だったが、今はダイナミックHTMLが使われている。

ダイナミックHTMLは、何か特定の規格のように感じられるが、実はクライアント側で行う動的なウェブコンテンツの動作を可能にする仕掛けの総称だ。本書では、知っていたようでおぼろげにしか理解してなかったダイナミックHTMLについての理解を深める解説がなされている。

ダイナミックHTMLという名前

にしたところで、ネットスケープ社のものは「dynamic HTML」と表記し、マイクロソフト社のものは「Dynamic HTML」と微妙に変えて表記している。もちろん、どちらもダイナミックHTMLを表すことは変わらないのだが、

2社の技術に共通するCSSスタイルシートとJavaScript (JScript)を中心に説明しており、解説の最後には例題を置くなどして、演習をしながら学ぶことができる。

例題などが日本語環境に改められ、理解しやすい。内容も平易な文で読みやすいが、HTMLについての知識がある技術者向きといえる。巻末付録のHTML4.0、JavaScript1.2、VBScript、CSS1のリファレンスも便利だ。

日本のインターネット利用者数は1,009.73万人

『インターネット白書'98』

インターネットの現状を捉えるときに必携の白書の最新刊に冒頭から驚かされる。インターネット利用者数はおよそ1,009.73万人。日本中の45～49歳の人口1,040万人を6月には超え、年末には東京都の人口1,186.33万人を抜く1,385万人に達すると予想されている。使っている人の性別を見てみると、調査回答者の内訳では、女性が昨年の9.5%から、大きくポイントを伸ばして、23.4%となっている。もうすぐ、

4人に1人が女性ということになり、なんとなくうれしい。年齢に目を向ければ40～44歳が19.0%、ついで30～34歳17.6%、35～39歳16.7%と続く。この値は実際にネットサーフィンをしているときに受ける年代や性別の感覚と食い違っているが、これは電話と郵送での調査であるからだ。同時にWWWを使った調査での回答も掲載されている。女性比率7.1%、年齢では20代後半、30代前半が20%を超え、20代前半、30代後半と続いている。これは実感を伴う値だ。

今年も、ここ数年のようになんて単純にインターネットが大きくなっているというよりも、不況やパソコン通信からインターネットプロバイダーへの移行など、多様に化する状況に対応しながら成長を続けているといえる。先が見えない時代に、刻々と姿を変えるインターネットを捉えるには最適な本だ。



日本インターネット協会編
インプレス 発行
206 ページ
本体 4800 円 + 税
ISBN4-8443-4886-8



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp